

【栄区】令和 7 年第 2 回区づくり推進横浜市会議員会議 議事録

開催日時	令和 7 年 6 月 11 日(水) 午後 3 時 30 分～午後 4 時 30 分
場 所	栄区役所新館 4 階 8・9 号会議室
出席者	<p>【座長】大桑正貴議員</p> <p>【議員：2 名】奥石かつ子議員、長谷川えつこ議員</p> <p>【栄区：28 名】松永朋美区長、米山岳夫副区長、 雨堤崇福祉保健センター長、 大野豊福祉保健センター担当部長、 丸山知明土木事務所長 ほか関係職員</p>
議 題	1 令和 7 年度個性ある区づくり推進費執行計画について
発言の 要 旨	<p>長谷川議員： 12 ページ、2 「未来を育むつながり・自然・文化・学びに溢れるまちづくり」の実施内容（1）「地域の課題解決推進事業」だが、この事業を行った中で、こういった地域の課題というものが浮彫になったかということと、出てきた問題の解決に向けて今後どのような手立てを打っていこうと思われているのか、事例でいいので聞かせてほしい。</p> <p>田中麗子区政推進課長：意見交換会は、令和 5 年度から実施をしていて、昨年度 2 回目の意見交換会を 9 月から 11 月までの間に 7 地区で行った。</p> <p>いずれも自治会町内会の加入率が年々減少している現状があり、その加入促進についての意見や、委嘱委員のなり手が不足しているという課題で、そういった地域活動に関わる方々をどのように取り込んでいくかという意見があった。例えば、ある連合では、そのイベントに自治会町内会とは別に協力してもらえようようなメンバーを登録制でやっているようだとか、その各自治会町内会における工夫などをそれぞれが意見交換するというような場面も見られた。</p> <p>そのほか、皆様の関心が高いところは防災や、昨年度は青葉の事件があったので、防犯だった。また近年増えている空き家問題などが地域の困り事としては意見交換の中で出てきていた。</p> <p>どの課題についても、行政としても認識している課題になるの</p>

で、意見交換しながらできる限り地域に寄り添った支援を区役所一丸となって対応していく。

長谷川議員：やはりどこの自治会でも高齢者、高齢化が進んでいるということと、人手不足ということが本当に言われているとおりでなと感じた。更に手伝ってもらえるような環境づくりや、やはり手間がかかるということで、皆さんけっこう忙しい方が多いので、そういったところを簡素化できるような形で色々と提案してほしい。

15 ページ「子育て世代の健口応援事業」だが、ここはお母様に対して口腔ケアであったりとか、歯周病予防の啓発を行ったりするということか。

栗竹史明福祉保健課長：今年度の新規事業で、子育て世代の健口応援として、なかなか定期歯科検診の受診機会のない子育て世代の方、保護者さんを中心に、乳幼児健診の際に虫歯菌チェックキットを渡して判定を行い、今どの程度虫歯にかかっているか、リスクということを知っていただいて、そちらの口腔ケアに対する意識を高めるために始めたもの。

長谷川議員：今、お子様は中学校まで医療費が無償化ということで、簡単に病院に連れて行ける傾向にあるが、やはり産前産後、母親はカルシウムが不足してしまう状況で口腔のケアをおろそかにすると、すぐ歯が駄目になる方が多くいる。そんな方に向けて、是非この事業の拡充をお願いしたい。

次の「生活衛生普及啓発事業」だが、本当に気温が上昇していて、食中毒などが非常に流行っているので、こういった取組を今後やっていくのかということと、今回、蚊の対策にスポットを当てて講習をやられたということだが、蚊に着目された理由も教えてほしい。

松木諭和生活衛生課長：食中毒予防に関しては、まず営業者に衛生講習会や立入監視指導のときにチラシの配布、施設点検などで食中毒予防を呼び掛けている。また、消費者、一般の区民の皆様には、食中毒予防キャンペーンという、イベントの企画をしていて、8月26日に栄区の食品衛生協会と協力してイベントなどを実施する予定。それに向けての広報も広報区版で食中毒予防に関しての呼び掛けと共に周知を併せて行っていく。

蚊の対策の講習会で、なぜ蚊に着目したかということだが、こちらは特に蚊だけではなく、相談対応だとハチなどについても受付はしていて、今回は出前型講習で、自治会町内会のほうから「蚊をテーマに講習をしてほしい」という要望があったので、蚊を中心とした話をした。

○長谷川議員：18 ページ「まちづくり推進事業」の（２）「地域交通環境等の向上・維持管理」に関連して、昨年度、横浜市は「新たな公共交通に向けてプッシュ型で支援をしていく」とあった。

今回、広報よこはま 6 月号に、地域交通や、デマンドバスの状況が書かれている。その中で栄区にこういったバスがまだ一つもなく、2025 年の新規取組候補地区にもやはり栄区が一つも載っていない。この新たな公共交通の事業が始まった中で、今後栄区の公共交通の在り方や考え方についてどのように思われているか。

田中区委推進課長：地域交通に関する、今年度から始まっている「みんなのお出かけ交通事業」に関してということで受け止めているが、今年度プッシュ型で入る地区が 7 地区あり、そのうち一つが栄区の小菅ヶ谷地区ということになっている。小菅ヶ谷だけではなく、隣接する港南区の日野南地区と併せてだが、7 地区の中に選ばれている状況。小菅ヶ谷と日野南に関しては、公共交通圏域外の面積の大きさや人口密度、高齢者人口の状況などを踏まえて、早期に着手していく地区として位置付けられている。

現状において、栄区は、その公共交通圏域外になっている地域の連合町内会、あと単会に対して、その取組の意向を確認しているところ。ただ、栄区内でそのような地域交通、日常の移動に不便を感じられている方というのは、ほかにもたくさんいると思うので、そういった方々から声を受けた場合は、都市整備局と連携して、少しでも地域の方の移動が楽になるように連携して取り組んでいきたい。

○長谷川議員：小菅ヶ谷地区と日野南地区のほうにも 2 か所土地があるので、連携した事業なのかバラバラなのか分からないが、取組の候補地として確かに挙がっている。是非進めてほしいのと、公共交通圏域に関しては、バス停があるからそこはその圏域に反映されていなかったりするが、やはりそこの利便性の悪い状態だったり、そこが坂だったりとか丘の上だったりとか、アップダウンが

ここの中にはちょっと反映されてない部分があると思うので、公共交通圏域でも必要などころには是非呼び掛けてほしい。

6月5日号のタウンニュースには、住民の方が、「本郷台行きのアクセスが必要だ」という声が上がっている。この声は本当にたくさんある。事業者との絡みもあると思うが、区が率先して、地域の方々がどういったところに足を運んでいきたいとか、生活の向上がどういった便があればもっといいのか等を把握して、それを事業者に提案するということが今後必要ではないか。難しいことだと思うが、是非そういったことも積極的に進めてほしい。そこに関して何か考えがあれば聞かせてほしい。

田中区委推進課長：坂道はデータに反映されていて、一定以上急な坂はアクセス道としては反映しないという形でデータが処理されていると聞いている。ただ、ご指摘のとおり、地域の方が普通に感じる不便感とデータというのは、ずれている面もあると思っている。

都市整備局のほうからは、不便を便利にするよりも、まず、ないところにつくるというのを優先していくという話は聞いている。地域の声というのは豊田連合のアンケートだと思うが、連合とは、都市整備とともに打合せをしているので、今後、地域と一緒に検討を進めていきたい。

長谷川議員：最近、プラスチックごみの回収方法の変更と、品が増えて、週に1回のごみ回収量が増えているところを懸念している。そこに関して何か区民の方からご要望はないか。また、ごみ集積場所に、その日のうちに置いてもカラスやネズミなど、そういった動物たちが悪さをしてごみが散乱してしまうことに関して何か区民の方からご要望はあるか。

田中則行資源化推進担当課長：プラスチックごみについて、回数を増やしてほしいという要望は特には聞いていない。収集場所のカラスやネズミについては、相談を受けている。直接相談があったところについては、カラスがフタを開けられないような細工をするなど、これまでのノウハウを伝えており、一定程度効果が上がっている。困り事があり相談いただければ対応していく。

興石議員：全体的に見て、おおむね計画どおり進んでいるという感じなのか、「これがボトルネックだ」というようなものがあれば伺いた

い。

松永区長：今年度、始まってまだ2か月というところだが、今のところ順調に進んでいるものと考えている。

興石議員：今年目標という感じで最初に伺ったときに、市全体と連携してこどもファースト的なことを伺ったと記憶している。その点でも順調という感じか。

松永区長：事業をしていく中で、子供たちや子育てしているお母さんたちと接するので、そうした課題感をもって今回の新規事業である「発育・発達相談支援事業」なども立ち上げた。今後も、色々な環境が変わっていくので、そういったところに地域の声をきちんと聞きながら繋げていきたい。

興石議員：そこに対して、子供の視点というのが残念ながら、もう少し足りていないという感想を持っている。その辺の区が目玉事業と子供というような関係は、区長はどう考えているか。全体に目玉でこれからやっていく事業と思っているのが、焼きそば名人とか、あと区制40周年のイベントとかがこれからどんどん上がっていくと思うが。

松永区長：焼きそば名人は、地域でイベントをして、そのお手伝いということなので、直接子供ということではなかなかないが、40周年については今、色々企画を進めている段階で、やはり未来を担う子供たちには40周年というものを意識してほしいと思っている。この資料には表れていないが、今、事業の企画を練っている段階では、子供たちに対してどのように広めていくか考えている。

興石議員：是非、子育て世代に選ばれる栄区ということを意識して、色々な新規事業もどんどん試しでやっていってもらいたい。その中で、「発育・発達相談支援事業」を早速やっているが、この参加人数はどのような感じか。

中村秀夫こども家庭支援課長：4月についてはまだ始まったばかりというところで、保健師とかそういった相談を受けたところから声掛けをしたので、4月は3名だった。5月に関しては、リピートの方も含めて、今、6名という参加状況。

興石議員：お母さんが一緒に参加か。父親もいたか。

中村こども家庭支援課長：いずれもお母様と一緒に参加となっている。

興石議員：発育発達の悩みというのを一度家庭で抱えたと、お父さんの働き方も変わってきたので、お父様が大変苦勞しているということ
をちらほらと聞くようになっている。お母様はもちろんだが、父親の子育て参加とか、お父さん自身の悩みとかにも寄り添ってあげる必要があると思う。その辺で意識されていることはあるか。

中村こども家庭支援課長：今、お声掛けをしているのが、育児相談等で来ている方というところで、まずはお母様のほうから来ているという状況ではある。もちろんお父様のほうからそういったお話があればそういったことに繋げていくが、そういったところは考えていかなければならないところと思っている。

興石議員：声が上げづらいと思う。どうしても仕事のストレスと新しく家庭環境も変わってきて、男性が生きづらさを抱えているというのは話がしづらい、悩みを持って行く先がないというのを聞くので、是非これからちょっと意識してほしい。

興石議員：「タッチーくんと一緒に育つさかえっ子事業」があるが、名前が面白いと思う。タッチーくんも育つのかと思ったけど、区民の反応というのはどうか。何かアンケートなどで調査しているのか。

田中区政推進課長：この事業で乳幼児健診のときに小児医療証ケースを配布している。渡しているときに「かわいい」という言葉は聞いているが、特にこれに限ったアンケートは実施していない。

興石議員：これまでゆるキャラグランプリが随分流行っていた時代があったが、最近はあまりないのか。ここ数年参加していないのか。

田中区政推進課長：メタバースの中で行われているという認識はしているが、一旦ブームは去ったと思い、今のところ出場は考えていない。

興石議員：居住促進というようなことをやっていると思うが、横浜駅構内に栄区の大きな看板を出して、栄区内の今住んでいる方に継続して住んでもらうのはもちろん、新規の人を開拓していこうということがあると思う。こういうところを、せっかく始まった取組なので、是非このタッチーくん、若い世代へのアピールポイントということを意識していると思うが、どうか。また、今年更に強く意識されていくことはあるか。

田中区政推進課長：居住促進に関しては、昨年度は横浜駅に大きなポスターを出したが、今年はWeb広告のほうに力を入れていきたい。利用している方々という観点で見れば、SNSは若い方々がみんな

な使っているので、そこにアプローチできる手段と思っている。

タッチーくんについては、昨年度、SNSのキャンペーンをやったとき、市外の方々もすごくかわいい、むしろ「グッズを送ってほしい」とか、そういう意見もあった。今年、このWeb広告自体は共同事業でやっている三春情報センターと一緒につくっているが、その中でもタッチーくんを登場させたらどうかということは議論の中では出ている。ただ、まだどういう方向性にしていくという議論は続いているところなので、いただいた意見も踏まえて、子育て世代にアプローチできる動画にしていきたい。

興石議員：三春情報センターがキーワードも新たにつくったので、おしゃれな看板とイメージが連動していくように、せっかくつくったキーワードは40周年でも使えばいいのではないかなと思っていた。是非その辺の、せっかくつくり出したブランドイメージをまとめていったらいいと思うが、その辺は意識されているか。

松永区長：ポスターに使っていたキーワードは直接的には40周年で入れ切っていないが、基本的には「住みやすい栄区、住み続けたい栄区」ということをテーマのベースにしているので、意識としてはつながっていると思う。

また、魅力向上について少し補足をすると、今年度Instagramも開設した。これから栄区の魅力があるところの写真を撮影して、Instagramに上げていくことで、区内だけではなく、区外の方にも栄区の魅力を知ってもらい、そこにもタッチーくんを登場させることで栄区の魅力をPRしていきたいと考えている。

興石議員：目から入る情報というのが人間の意識の8割だという話も学者の説であり、意識していただいて大変有り難いが、つくったビジュアルとキーワードは著作権の問題とこともあるのか。

田中区政推進課長：一緒につくっているものになるので、「栄区暮らし」というホームページ上とポスターで使用している。それ以上使う場合は恐らく協議ということになると思うが、居住促進の中で使っていく分には協力は得られると思う。

興石議員：是非使ってほしい。

ふるさと納税は、課題もありながら今後も継続していくと思うが、横浜市もそのふるさと納税による歳入の目減り分というの

がかなり課題になっている中で、横浜市がふるさと納税の返戻品として何かアプローチできるものがあるというのも常に考えていかないといけない。それを 18 区ある区ごとに何か名産品とか区の特長を出したものを、市を窓口にして出していったらいいと思っている。そのような話は多分今のところないかと思うが、タッチーくんとか栄区グッズとか、そういうものに対して区提案とかで上げられないか。

松永区長：この後、議員団会議のほうでも説明するが、18 区で特長を出したということではないが、栄区としても今、シンボルリバーであるいたち川の保全再生について、ふるさと納税の仕組みを活用して、再生に挑んでいきたいと考えている。返戻品としては、制度上市民の方に返戻品は無理だが、市民以外の方にはタッチーくんを活用したものを考えている。

興石議員：とてもいいと思う。インフラ整備等に係るお金をふるさと納税で対応しつつ、市外の人には何か記念のものが返礼される。とても積極的にやったらいいと思う。

地域交通の話、先ほども出ていたが、「みんなのお出かけ事業」というのがこれまでの経緯を考えると、本当に二歩も三歩も進んでよかったと思う。公共交通圏域外から埋めてくという話もよく知っている。ただ、一方で長谷川議員からも出ていたように、その不便をどう埋めていくかというのは、常に出てくる意見で、それに対して我々も何かしら、まずは圏域外だが、便数の少ないところにも対応していけないと思う。

小雀を走っているこすずめ号とか、四季めぐり号とか、そういうものも区民を連れて視察に私も何度も行った。スタートのときの予算は付いても継続に資金が付かないので、結局は断念することが何度も繰り返されているのが現状で、最近「もう一度やらないか」という声かけをしたところ、市役所の方から話を聞いて「なるほど」と思ったことがある。せっかく今走っている、栄区で言ったら神奈川中央交通や江ノ電バスが、少ない人で大変な中でも回しているところに地域交通が走り出すと、乗る人が増えるわけではなく、バスを使っている人がそちらに移行してしまう。そうすると、お客さんの、変な言い方だが、奪い合いが生まれて、せっかく維持している神奈川中央交通の営業成績に影響が出てし

まうということがあって、本当に苦しい選択になるということを聞いた。

大変大事な視点だと思った。新規で四季めぐり号のようなバスを走らすのも大事だが、既存の民間事業者と、本当に膝詰めで、どこにどう走らせたらいいのか、どこに公共の力を入れていったらいいのかというのをとことん話し合っていないと、よかれと思ってやったことがマイナスな結果になるということもあるということを聞いたので、是非、地域交通に関しては、皆さんと知恵をしぼり合って、どうするべきかということを、協議会を何度でも開いてやっていったらいいと思う。

田中区委推進課長：バス会社もかなり厳しい状況で運営しているものと認識している。地域交通という考え方が、既存の交通サービスに付加するというか、補完するような形で構成されていくものだと聞いているので、新規の路線をつくる際にはバス会社との協議等が必ず必要となる。その中で、バス会社に負担をかけず地域の方々が便利になるという道と一緒に探っていきたい。

興石議員：最後に「本郷台駅前広場活性化推進事業」だが、イベントをやってもらい、イルミネーションとか活性化って、私も様々関わらせていただいているととても有り難いと思うが、本郷台の駅前の再開発に関しては万人の共通する関心事になっていると思う。

再開発事業、駅前再開発ということで国費も入れて、大船の事例のようにやっていくことになった場合、本郷台の駅前再開発というのは今のルールに従ってやっていくことになるので、例えば、広場をゆるく使えるような状況をキープするのが難しくなるのではないかと懸念している。

その中で、総合的・トータルの再開発を進めるのは大事だが、一つひとつ個別に丁寧にやっていくという方法を取るべきではないかと、これまでも歴代の区長さんをはじめ、伝えてきた。

先日、役所の見解としても、「トータルで一遍にということではなくて」という話も出て、伝えていたとおりになってよかったと思っているが、短い時間の議員団会議では到底話し合えるようなテーマではないと思う。もう少し区役所の皆さんと我々議員団も、本郷台という大事な、唯一の栄区の駅前の開発について意見交換をしたほうがいいと思っているが、そういう枠組みのような

ことは設けることはできるか。

大桑座長：現状で何か決まっているわけではないと思う。議員団会議の場で議題を出してもらい都市整備局を呼ぶとか、工夫をしてやったほうがいい。今の話は、会議をつくるところまではいっていないと思うので、まずは都市整備局を呼ぶとか、そういうところからという気がする。

松永区長：色々な方から意見を聞くことが大事かと思うので、どういう方法が取れるかということも検討していきたい。

興石議員：建築局の市営住宅の建て替え問題で、建て替えた場合、何戸世帯がキープできるかをヒアリングする、そこがスタートだった。その時には、建築局のmatterで言えば、市営住宅の在り方になるが、その時に区がその議論の中に入っていなかった。当時の区長に確認し、区役所を巻き込んだ議論になっていないということで、建築局に区役所まで来てもらい、今、現状みんなで把握するという会議を持ってもらった。そこから「ほかのこともやっていかなければいけない。図書館問題、地区センター問題、もう少し拡大して栄共済のほうまで範囲を拡大して考えるのか」ということを、スタートしてもらった。やはり地域の声は区役所だというのが本庁からの見え方なので、そういうところをしっかりと目を見張っていかないと、先ほどの話のように、よかれと思ってやったことが思ったように進まないということになってしまうと思う。

大桑座長：18ページの「居住促進・空家対策によるまちの活性化推進事業」で、タッチーくんのことはよく言われて、若い子からは、インスタを見せていただいたところ、アイコンでちょっとアニメチックになっているが、アニメがけっこう若い世代、大学生ぐらいにウケていて、「なんでもっと使わないの」とか言われている。

そうすると、居住促進など、もちろん、20代、30代にもあるだろうが、今から働く人とか学生とか、働くときになって「本郷台を選んでみよう」とか、そういうふうにもなってくると思う。タッチーくん、人気あるなという声が来るので、そこを是非うまく使ってほしい。

14ページの、「さかえの野菜めしあがれ！事業」で、もし冊子があれば、多分、毎年更新していると思うので、もらいたい。たまに見ると、おいしそうなのがあるので、見たい。また、この評

判はどうか。

栗竹福祉保健課長：冊子については今回、更新したものがあるので、後ほどお渡しする。直接的にその評判を聞くことはないが、取り上げている野菜の直売所の情報も載っているので、そういったところを活用して、皆さんに足を運んでいただいている。

大桑座長：8ページの、育児教室や妊婦、養育者面談とか発育相談、発達相談だが、局との連携はもちろん大切だと思うが、地域で色々なものをキャッチするのは区の皆さんだと思う。大分皆さん神経を尖らせてやっているの、不適切な保育とかは多分もう本当に減ってきているとは思いますが、どこまで介入していいのかとか多分あったりすると思う。今どういう状況かというのと、何か課題とかあれば教えてほしい。

中村こども家庭支援課長：実際、子供のその不適切かどうかと、そういったものも含めて発見するということについては、例えば今、乳幼児健診とかそういったところへ来たときに様子を見る。

また、生まれて4か月までの方については、「こんにちは赤ちゃん訪問」とか、そのほかにも実際、母子手帳等交付時にお母さんの状況も確認していて、色んな形で確認をしているところ。

その中で、やはり訪問する中で育児の不安、課題を感じているお子さんのお母様がもしあれば、そこの相談にも応じている。また、お子さんの発育というふうなところ、ここも実際、保健師とかが確認をする中で、例えば発育が遅れているとか、そういったところから相談に応じているし、場合によっては関係するところからの支援につなげていく、そういったところを今やっている。

大桑座長：18ページの「居住促進・空家対策によるまちの活性化推進事業」で、Instagramを開設したのを見て、今、色々魅力スポットも撮影しているという話だが、今後区民から募集するとか、ハイキング、ハイカーの方から募集するとか、そういう考えはあるのか。広げていき方だと思うが、何か考えがあれば教えてほしい。

田中区委推進課長：Instagramについては、写真のクオリティが非常に重要だと思っているので、一旦は我々のほうでクオリティを維持した写真を上げていくということを考えている。

ただ、例えばキャンペーンとしてそういうのを収集するとか、そういった参加型の取組もあっていいと感じているので、まだ始

	<p>めたばかりなので、今後皆さんにフォローしていただけるような仕組みづくりの中で検討していきたい。</p> <p>大桑座長：是非進めてほしい。友人に、ドローンの免許を取って栄区でも飛ばして空撮とかしている、仕事とかしている人もいたりするので、うまく色々な方とコラボしてほしい。</p> <p>21 ページ「GREEN×EXPO 2027 プロモーションによるさかえの魅力向上事業」の（２）「①動画制作」のところだが、話せることがあればここで聞いておきたい。</p> <p>田中区政推進課長：昨年度設置したデジタルサイネージで放映する動画を制作する予定となっている。つくり方としては、小学校と連携して授業の中で GREEN×EXPO 2027 の説明をして、それに対して子供たちが感じたことを動画で撮り、それと制作風景を合わせて放映していくことを考えている。子供たちにとっても考えるきっかけとなり、保護者にも広がっていく事業と思っている。これから協力してくれる小学校を探すというところで、できるだけいい動画にしていけたらと思う。</p> <p>大桑座長：小学校ということか。</p> <p>田中区政推進課長：小学校で考えている。</p> <p>大桑座長：駅前で流すということだが、動画の内容によると思うが先ほどのインスタグラムとかにも載せたり、区のホームページに載せたりとか、何か発信する場所を少し増やしてもいいと思った。</p> <p>田中区政推進課長：一応、サイネージ用だが、例えば区役所のサイネージとかにも映していこうと思っている。掲載の仕方も含めて今後検討していく。</p> <p>大桑座長：また教えてほしい。</p> <p>ほかに発言がないようであれば本件は以上となる。</p> <p>会議報告書の作成については座長一任。了承</p>
備 考	